

TOKYO MOVING
ROUND

東京感動線

Magazine

2020 Winter

Vol.04

Supported by
Discover Japan

TAKE
FREE

街を見つめ自分を育む



東京の、
ちょっとだけ
未来の景色。

ここでは、いろいろな街と街、いろいろな人と人が、
山手線という、フシギな輪っかでつながっている。
違うもの同士が、つながりながら、ひろがっている。

そこから生まれてくるものは、
思いもよらない発見、出会い、楽しさ、優しさ…。
心が動き動かされる、新鮮な日々。

そこに生きるみんなで、
東京を世界でいちばんの感動に満ちた
ワンダープレイスにしていけたらいいと思う。

具体的に何が生まれるかは、きっと本当にいろいろ、
そしてまだ、本当に未知数だらけ。

でもそれが、これからいろいろな人たちと
いっしょにつくっていく、
開かれた山手線の可能性だと思う。

東京感動線

TOKYO MOVING
ROUND

田町に見つけた 街の人が集まる“社屋”



みんながつながる
縦のワンフロアを

太陽の光を眩しいほどに反射するガラス張りの建築、SHIBAU RA HOUSE。通りから見えるカラフルなキッズスペースやあふれる緑、おしゃべりを楽しむ人たちの笑顔から、この建築の体温が伝わってくる。

「僕たち社員と、この街に住んでいる人たちと、この街で働くビジネスマン、あらゆる人がつながれたら何かの種が生まれるだろうと思って、2011年に社屋を建て替えたときに1階を無料開放しました。みんなのリビングみたいでしょう？」

そう語るのは、広告デザイン会社（株）SHIBAU RA HOUSEの

代表取締役・伊東勝さん。全5階のうち、オフィスは4階のみ。誰もが自由に寛げる1階リビング、仕事や勉強に集中できそうな2階ラウンジ、会議やセミナーに最適なスペースがふたつある3階ラウンジ、全面ガラス張りの5階バードルーム。4階をのぞく全フロアが、イベントなどに使えるレンタルスペースになっている。

そもそも、なぜ一企業が社屋を街に開いたのだろうか？ 話は伊東さんが代表取締役を引き継いだ約10年前にさかのぼる。自社ビルは老朽化、創業当時から手掛けてきた広告製版の仕事は時代に合わなくなり、放っておけば傾いてしまいうようなタイミングだった。

「田町・芝浦界隈は会社も住民も増えてきているのに、お互いにつ





Photo : 4・Iwan Baan / 6・Ryuichiro Suzuki

1・5) 近隣の母親たちとビジネスマンがひとつ所で寛ぐ1階リビングの日常風景。片隅のキッズスペースには子どもの姿も。2) こだわりのコーヒーは、1階のカフェ「Coffee Wrights」にて。3) 「ここは街にひらかれた、みんなのリビングです」というメッセージ。4) 各階をつなぐスキップフロア。至るところに見られる曲線が遊び心を感じさせる。6) 「OPEN! FURNITURE」の取り組みで制作したベンチが憩いの場に。7) たくさんのグリーンを配したのは「誰もが気軽に足を踏み入れられるように」との思いから

SHIBAURA HOUSE フロア概要

5F	パードルーム。プロジェクターや音響設備を完備したガラス張りの空間。5F専用のテラスも使用可。パーティやイベントに
4F	(株) SHIBAURA HOUSE のオフィススペース
3F	ラウンジ。普段はコワーキングスペースとして利用。会議やセミナーにも最適
2F	ラウンジ。1Fと吹き抜けでつながっているため、イベント時には1〜2F合わせての使用もおすすめ
1F	フリースペース、カフェ。誰もが無料で気軽に使えるコミュニティスペース。トークイベント、ワークショップ、パーティなどにも

オリテイの高さは、もはや「SHIBAURA HOUSEブランド」だ。「僕が一番感動したのは、子どもたちと一緒に1200本のペットボトルで船をつくって東京湾に漕ぎ出そうという1泊2日のイベント。ゴミの問題、海洋汚染の問題、航行権の問題などに触れつつも、船が浮かんだときは単純に『やったぞー』って（笑）」

独自に構築したのは、フレンドシップ・プログラム。志のある個人や団体がSHIBAURA HOUSEの内外を問わずにイベントを開催できるよう、自社で得た助成金を再分配するかたちで協力するシステムだ。2019年には、このシステムを使って10数カ所もの会場がイベントが実現している。

人と人がつながれる街の中での取り組み

イベントとは別に、公的機関からの助成金を利用して長期的に取り組むプロジェクトもいくつかある。たとえば「OPEN! FURNITURE」はパブリックスペースの可能性を模索するプロジェクト。パブリックファニチャーとして制作したベンチを街の中に置き、人々が集う場をつくっている。オランダ大使館などの協働で手掛けるプロジェクト「ul/minato」では、共生社会をテーマに学びを深める試みを3年にわたって続けてきた。話題にのびるジェンダーなどの問題に向けて、誰もが一歩踏み出せる場になっている。

助成金を再分配し
学びの機会を増幅させる

現在、SHIBAURA HOUSEでは、自社で企画したもの、他団体にスペースを貸したものを合わせて、年間100回を超えるイベントやワークショップが開催されている。アート、カルチャー、社会問題など多岐にわたるテーマ、ク

ながっていない。つながる場をつくれば会社にとってもよい展開があるかもしれない。そう思っ、可能性に賭けたんです」

どうせなら振り切ったものを建てるほうが人が集まるだろうと考え、世界的な建築家・妹島和世さんに設計を依頼した。

「最初から、ワンフロアにしたいという理想がありました。ここは敷地が狭いので、縦のワンフロアです。みんなが階段でつながっていて、すぐに顔を見に行ける。そんなコミュニケーションに回帰するところからはじめようと思ったんです」

右) 3Fのラウンジにはガラス面とテラスで仕切られた2つのスペースが。ホワイトボードやモニターが完備されているので、会議などに最適。左) 5Fのパードルームは地上約25m、全面ガラス張り。美しい夜景も楽しめる



Photo : Ryuichiro Suzuki

お話をうかがったのは

株式会社
SHIBAURA HOUSE
代表取締役
伊東 勝さん（P02）

1974年生まれ。2000年京都造形芸術大学メディアアート学科修了。2005年（株）広告製版社（現（株）SHIBAURA HOUSE）に入社、2010年代表取締役。趣味は旅と自転車

“パブリック”への取り組み

公共機関の限界を
超えていきたい

こうして、公共性の高い取り組みを続けてきたSHIBAURA HOUSEにとって課題となっているのは、街をよくするための企画が「公共機関」という壁に阻まれて行き詰まりがちなことだ。

「パブリックファニチャーの企画では、区の助成金で動いているにもかかわらず、公共スペースにはベンチを置けないことが判明。商店街などを1軒ずつ訪ねて協力を求めました。ペットボトルの船をつくったときは、管理が厳しくて自由に入れる海がないことに困りましたね。もちろん、公共機関にも理解のある方はたくさんいらっしゃるのですが、ルールが多過ぎてがんじがらめです」

本来、社会にとってプラスになるような仕事をするのが公共機関の役目だが、いまの日本では逆にストッパーになりがちだ。それならば、がんじがらめになっている部分を少しゆるめたり、グレーゾーンをつくり出したりしながらパブリックな仕事をしていくのが、SHIBAURA HOUSEのようなスタンスをとる企業の役目なのかもしれない。伊東さんはそう考えるようになった。

「いまは、民間だからこそできる

パブリックなこと」を求めて試行錯誤しています。広い意味で社会が必要とすることを企画していき

たいですね。今後の方向性としては、社会貢献と利益を両立させるソーシャルビジネスに寄っていくと思います」

建築を起点とした
正のスパイラル

街に向けて場を開いてコミュニティをつくり、体験や学びの機会をシェアすること。社会をよくす

「街を変える力になる
建築が起点のスパイラル」

るための活動と利益を両立させること。すべてはここ数年における社会の大きな流れだ。2011年に社屋の一部をオープンにしたSHIBAURA HOUSEは、かなり大幅に時代を先取りしたと言えるだろう。

「実は旧経営陣の時代から、資金も物資も余裕があれば街の人たちと分け合おうという考え方がありました。町内会のポスターを制作したり、幼稚園に紙を寄附したり、いろいろと動いていたようですね。

一企業でありながらパブリックな動きをする風土は、昔からあったんです」

創業時からのDNAを引き継ぎながら、本業のかたわらでさまざまな文化的プログラムを運営してきた8年半は、新たなSHIBAURA HOUSEをつくり上げた。伊東さんは「前の社屋のままであったら、あり得ないことばかりだった」と振り返る。はじまりとなったのは、もちろんこの美しき縦のワンフロアだ。

「この建築は、僕たちのコンセプトを見事に表しているんですよ。だから、この建築がフィルターになって、僕たちのコンセプトに共感する人たちが自然と入ってきてくれました。その人たちがいつの間にかこの建物のおもしろい使い

方を見つけてくれたり、新たなプロジェクトの種を持ってきてくれたり。それが自然と僕たちのブランドイングにつながったし、その中で壁にぶつかって悩んだことが、新しいビジネスの方向性も見せて

くれたんです」

建築から人の営みが生まれ、その営みが建築の使い方に反映され、そこからまた新しい出会いが生まれ、新しい世界が広がっていく。SHIBAURA HOUSEから見えるのは、建築を起点としたそんな正のスパイラルだ。

「どれだけ美しい建築物であっても、それが生かされなかったら意味はないですよ。きれいな竣工写真だけ撮っても仕方がない。大事なのは、建築がこうして街の中で人と一緒に生きていくということ。建築の力はそこでこそ発揮されるんです」

点と点のつながりが
田町・芝浦を変える

実は20年ほど前、至るところが倉庫ばかりで、人通りもまばらだった芝浦に住んでいたことがあるという伊東さん。この街の過去も現在も熟知しているからこそ、じっくりと地に足をつけて未来を見据えている。

「ここは、位置的にも役割的にも、東京の中心地から少し外れているでしょう。だから、既存の価値観にとらわれない新しいことを試みやすいと思うんですよ」

ただ、近年はタワーマンションが建ち並び、富裕層がこぞって住むようになった。賃料の高さゆえ、

若い世代やアーティストのような人々が新たに入り込むことが難しくなり、街から多様性が失われつつある。

「でも、人間である以上、人とのつながりを求める気持ちはみんな同じ。そこを受け止めながら、この街をおもしろくしていくのであれば、僕たちのように昔からここにいる人たちがそれぞれの空間や考え方を少し開いて、連携しながら動いていくしかないですね」

誰もがつながれる場をつくることは、伊東さんにとってゴールではない。SHIBAURA HOUSEの動きと街の動きが重なってうねりが生まれること、芝浦発のそのうねりが伝播して東京がもっとおもしろくなっていることを伊東さんは願っている。

DATA

SHIBAURA HOUSE

住所：東京都港区芝浦3-15-4

Tel：03-5419-6446（11:00～18:00）

開館時間：平日9:00～18:00（リーススペースのみ）

休館日：夏期休暇、冬期休暇、ゴールデンウィーク

www.shibaurahouse.jp/

※各フロア最大収容人数／レンタル料金（A：主催者が営利企業など B：主催者がNPO、教育機関など、非営利的活動をする団体や個人など 最低利用時間は2時間）

1F：約80名／A. ¥30,000/h B. ¥6,000/h

2F：約30名／A. ¥10,000/h B. ¥6,000/h

3F：約15名／A. ¥12,000/h（Bはなし）

5F：約80名／A. ¥25,000/h B. ¥15,000/h



Photo：1,2,6・Ryuichiro Suzuki

1・2）港区のコミュニティスペースや商店街などと連携し、誰もが使える家具を制作するプロジェクト「OPEN! FURNITURE」。3・4）デザインが社会に対してできることを考えるプラットフォーム「What Design Can Do」の創設者、リチャード・ファンデルラークン氏をオランダから招いてトークイベントを開催。5）1200本のペットボトルを使って子どもたちが作った船で、いざ東京湾へ！ 6）台湾から来日した戴開成氏による日本語と中国語を織り交ぜた落語で会場は笑いの渦に



東京の水辺に生まれる 新しい「街」の目指す姿とは



「ウォーターズ竹芝」が生む
東京の水辺の新たな魅力

JR浜松町駅から徒歩で約6分、高層ビルが立ち並ぶ都会的な風景と、庭園をはじめとした緑豊かな環境とが融け合う地域、竹芝。約90年前の埋め立てにより生まれた、東京ベイエリアである。劇団四季の劇場がある街としても広く知られる。

海水を取り入れる潮人の池をもつ「浜離宮恩賜庭園」、都心と臨海部を結ぶゆりかもめ、お台場、浅草とをつなぐ水上バスなど、竹芝とその隣接エリアは海とともにあり続け、海とともに発展してきた。

2020年、この場所に「ウォーターズ竹芝」が誕生する。商業

施設「アトレ」として初めての「エキサイト」となる「アトレ竹芝」、劇団四季の専用劇場「JR東日本四季劇場」と既存の「自由劇場」、JR東日本グループの日本ホテルとマリOTT・インターナショナルが初提携したラグジュアリーホテル「メゾム東京、オートグラフコレクション」、オフィスからなる複合施設で、水辺に臨むオープンスペースや船着場、干潟なども整備される。

ウォーターズ竹芝が目指すのは、〝つぎの豊かさ〟を生み出すまち。都心の水辺という稀少なロケーションを生かした街は、文化、芸術の発信拠点として、そして心と身体を癒し、リフレッシュする都会のオアシスとして、新たな価値を生み出していく。

お話をうかがったのは

JR東日本
東京支社 事業部
首都圏いきまき創造センター
秋山美帆さん（P08）

2011年に入社後、首都圏のエキナカ開発や
横浜エリアの駅および駅周辺開発を経験。
2017年にWATERS takeshiba（ウォーターズ竹芝）のチームに加わり、ブランディングやPRに携わる。一級建築士

次の時代の豊かさが心を潤す

街づくりのキーワードは
「都心・水辺・文化」

平安時代以来の歴史をもつ浜松町エリアにJR浜松町駅が開業したのは、いまから110年前の1909（明治42）年のこと。現在よりも海岸が近かったこともあって、開業当時は海水浴客や潮干狩り、釣りをする行楽客で賑わったという。1927（昭和2）年には旧芝離宮恩賜庭園より東側の海が埋め立てられ、竹芝町が誕生した。町の統合により海岸通一丁目と地名が変わった現在も、施設名や駅名に竹芝の名は残されている。近隣には東京タワーや世界貿易センタービルがあるほか、平成には、劇団四季の劇場がオープンした。そうした歴史や文化が物語る魅力も多いが、このエリアならではの魅力といえば海に面したウォーターフロントであることに尽きるだろう。

「都心でありながら、ここまで水辺に開かれた場所はほかにありません。開発にあたって、このユニークな立地、つまりこの地域ならではの魅力を生かした街づくりを進めることになりました。キーワードは「都心・水辺・文化」。都心に残る稀少な水辺に、多様な人々が集い、新たな賑わい、文化が生まれる街づくりを目指しています」

「JR東日本東京支社秋山美帆さん」。

JR東日本グループは昨年、新たなグループ経営ビジョンを打ち出し、従来の「鉄道のインフラ・技術を起点としたサービス提供」から、「すべてのヒトの生活における豊かさを起点とした、価値・サービスの創造」に挑戦している。「ウォーターズ竹芝がビジョンとして掲げているのは、つぎの豊かさを生み出すまち。都心でありながら、水と緑の両方を身近に

「都心の過ごし方が変わる、ひとつの事例になれば」

感じられる稀有なロケーションを生かした、いままでにない豊かな価値を創出したいと考えています。豊かさというものは、時代によって定義が変わるものだと思いますが、都心にありながら身も心もほっとできる空間であること、それが半歩先の豊かさであると考えました。ウォーターズ竹芝は、街の賑わいを感じながら水と緑に親しむことができ、多様な人々がそれぞれに心地よい時間を過ごせる場所。さらには、東京の水辺におけ

る都心側の結節点になり得る可能性も秘めており、都心の過ごし方が変わる、ひとつの事例になると考えています」

エリアの個性を生かした挑戦が生む新たな価値

JR東日本グループでは、これまでも駅を中心にした街づくりに取り組んできた。しかし駅から離れたエリアで、これほどまでに大規模なプロジェクトに取り組むのは今回が初となる。また、タワ

ー棟の高層階には、世界的なブランドであるマリOTT・インターナショナルとの初提携によるホテル「メズム東京、オートグラフコレクション」を開業する。「オートグラフコレクションホテル」は、独自性の高いブランドで、30以上の国と地域に160軒以上のホテルがあり、それぞれの場所の個性を重視した、唯一無二の価値を大切にしている。「インターナショナルブランドと提携することによって、海外から

のお客さまの受け入れ対応力を強化するだけでなく、オートグラフコレクションホテルならではの、都心の水辺というロケーションを最大限に生かした、独自性の高いホテル開発に取り組んでいます」

タワー棟とシアター棟に入る「アトレ竹芝」も、アトレとしては初めての「エキスポ」の施設となる。また、視覚、聴覚、世代というさまざまな環境での対話を通じて、多様な価値観に触れる3つのエンターテインメントが揃う日本初の施設「ダイアログ・ミュージアム」対話の森。』も誕生することとなる。

「ウォーターズ竹芝に関わる人々がそれぞれ新たなことにチャレンジすること、街とともに成長し、さらに、そこから新しい価値が生まれていくと考えています。ウォーターズ竹芝にお越しの際はぜひ、浜松町や大門など、それぞれに豊かな価値のある周辺エリアを回遊していただきたいと思います。そのような想いから、エリアの活性化を目的に、ウォーターズ竹芝公設インスタグラムで、竹芝周辺エリアの魅力を発信中です。ぜひチェックしてみてください。ウォーターズ竹芝だけで価値を完結させるのではなく、エリアの中で役割を担う存在でありたいと思っています」。

アトレ竹芝



オープンスペース



JR 東日本四季劇場【春】[秋]



メズム東京、オートグラフ コレクション

WATERS
takeshiba

DATA

ウォーターズ竹芝

住所：東京都港区海岸
1丁目10番30号他

営業時間：施設により異なる

Instagram：https://www.instagram.com/waters_takeshiba/?

WEB：https://waters-takeshiba.jp/

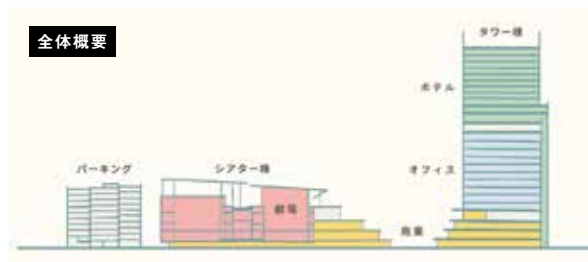


Instagram



WEB

全体概要





1) 最近、外国人のお客ですべてのカウンターが埋まることも。2) 健筆だった3代目が書いた番付表。3) 本芝のかつての様子。現在のハロウィンのように、仮装をして祭りを楽しむ町人の姿が写っている。4) 季節のおすすめは、出汁巻き卵とタラの白子の揚げおろし、穴子を海苔とキュウリの桂で巻いたものなど。5) 冷蔵庫が存在しない時代に出されていた鮪を再現。6) 店名の由来は、「おかめなし≡おかまいなし」から。食べたいと思ったどんなネタも頼めるという、店の心意気を表している。7) 店内を見渡すと、明治時代の書類も



五代目の身に 凝縮する市井の 人の姿と技の口伝

芝浦おかめ鮪

漁場から花柳界まで
時代とともに変化した芝浦

整然と建ち並ぶオフィスビルの間を、ビジネスマンが行き交う田町エリア。駅から徒歩8分、第一京浜に面した通りの一角に、1855（安政2）年から続く鮪屋がある。『五代目おかめ』と書かれた暖簾をくぐると、ご主人の長谷文彦さんが出迎えてくれた。

「江戸時代、芝浦は遠浅が続く漁場で、海の幸に恵まれていました。あの芝海老は、ここが由来。そうやって捕れた肴は芝肴と呼ばれ、『芝の夕河岸』で売られていたんです。早朝から開く献上魚を扱う日本橋と違い、ここは『芝の夕河岸』……といっても実際は昼頃から

ら売られていたんだけれど、長らく庶民の台所を支えてきたんだよね」

初代の頃から、この地に店を構え続ける「おかめ鮪」のエピソードは、この店の魅力でもある。リズムカルな江戸訛りを交えながら、長谷さんは続けた。

「3代目の祖父の頃は、本芝が最も粹だったかもしれないね。店の裏には料亭が5件あって、芝浦芸者と呼ばれる芸妓たちが行き来していました。彼女たちのお師匠さんのところに出前に行くと、よく叱られてね。引き戸の敷居を踏むと、そこは親父の頭（ほど大切）だから、踏むなと。敷居を踏むと、いつの間にか沈下して、戸がガタつくようになるんです」

先達から学び、変化を捉える
あえてこだわらない生き方

礼節を接客の場から学んだという長谷さん。鮪も父である先代だけでなく、周りの大人たちから学んだそうだ。

「親父の鮪を食べてきたお客さんから、お前の鮪はちよつと違うなと言われたことがありました。これはあまり話したことがないんですが、結局その後、おかめの系譜を受け継ぐほかの店に修業に出されるんです。修業先で驚いたのは、先輩の握った鮪が、親父の味と同じだったこと。職人の世界はおもしろいなと思いました。しかし、別の店に行けば、また違う味を知ることができ。鮪は、ひとつずつ違っていいんだ、とも気づかされました」



芝浦おかめ鮪 五代目店主
長谷文彦さん



DATA

芝浦おかめ鮪
住所：東京都港区芝4-9-4
Tel：03-3451-6430
営業時間：11:30～13:00、17:00～22:00
定休日：土・日曜、祝日 <http://okamezushi.com>

「時代と人から、鮪を学びました」

こだわりの、あえて『なし』と言う長谷さん。小学生からお年寄りまで訪れるこの店では、それぞれのお客に合った握りのあり方を大切にしたいそう。大人の男性にはネタもシャリも大きめに、お年寄りにはふたつに分けるなど、細やかな配慮を忘れない。

「時代が変われば鮪も変わる。3代目の頃の鮪は、コンビニのおむすびほどの大きさでした。それを6貫食べると満足するように図っていたんです。さらに女性が食べやすくなるために、半分に切ったところから、江戸前は二貫となつたとか。鮪自体が変化してきたように、うちの握りも変わっていくでしょう。近年増えた外国人客が教えてくれるサーモンなんかロールも、20年後にはうちの十八番になっているかもしれないね！」



1) 2階の「橋の間」(Room B・45㎡)にはダブル布団2組、シングル布団2組を配置。リビングの茶室ユニットは寝室としても利用可能。2) 正門から入ると正面に本堂、左手に宿坊がある。3) 1階の「桜の間」(Room A・42㎡)には低層キングベッド2台、ダブルソファベッド1台を配置。4) 境内には毘沙門天王の眷属(お使い)に由来する狛犬が。5) 各室にフルサイズキッチン完備。6) 玄関に貼られたお札に住職の心遣いを感じる。7) 英語の仏教入門書とメモ用に置かれた半紙・筆ペンからも宿坊らしさを感じる



DATA

Temple Hotel 正伝寺

住所：東京都港区芝1-12-12

チェックイン：16:00～いつでも可能

チェックアウト：10:00

宿泊料金：「桜の間」「橋の間」とともに一室あたり平日2万円(税込)、

週末(金・土曜夜)2万4000円(税込)

※3名以降1名増えるごとに+5000円

(各室最大6名まで)一棟貸切平日4万円(税込)、

週末(金・土夜)4万8000円(税込)

※宿泊料金は時期によって変動します

<https://oterastay.com/shodenji/>

る魅力的な観光地でもあります。仏教体験と街歩きを気軽に楽しめる都心の宿坊には世界中から人が集まり、お寺と街に活気をもたらしてくれると考えています」

本堂に隣接する2階建ての庫裏を改装した宿坊は、旅人の多様なニーズに対応できるよう、IoTを活用した24時間チェックイン・アウトシステムを採用。玄関は共有だが、客室は上下階1室ずつで一棟貸切も可能なため、家族連れも利用しやすい。和洋折衷のモダンなインテリアにキッチンやバス、洗濯機が完備され、我が家のように寛げそう。本堂では写経体験や願いに合わせた自分だけの特別な御守りがつくれるなど、仏教のエッセンスに触れることができる。運営会社の雲林院さんによると、ゲストの国籍や滞在スタイルはさ

まざまだが、従来の宿坊のように門限や食事提供がないぶん、近隣の商店や飲食店を利用する機会が多く、SNSを通じて街の魅力が世界に発信されているという。

また、東洋学園大学との産学寺連携プロジェクトでは、本堂で学生たちによる寺院活性化の企画コンペが行われ、住職もその柔軟な発想に刺激を受けたとか。

「檀家さんはもちろん、若者や海外の方とも積極的に交流し、意見を取り入れていきたいと考えています。多くの人々が気軽に立ち寄れる場所にしたいですね」

寺は古くから人と街をつなぎ、次世代に学びの場を提供し、伝統と文化を紡いできた。その本来の姿を現代の手法で取り戻す正伝寺の試みは、寺と街の未来を切り拓くひとつの希望となりそう。

世界に開かれた宿坊から生まれる交流と活気

東京タワーや高層ビルを背景に歴史ある寺院が点在する芝エリア。JR田町駅と浜松町駅の間に位置する日蓮宗松流山正伝寺は、江戸三大毘沙門天の一角に数えられ、大奥から庶民まで広く信仰を集めた寺として知られる。門には「開運大毘沙門天」と書かれた青い幟がはためいており、山手線の車窓からも目にすることができる。

「1602(慶長7)年、第百七代天皇の晩年における草庵として始まり、後に九州松尾山光勝寺の江戸出張所となりました。江戸期には寺の周囲に毘沙門横丁もあり大変賑わっていたそうですが、

江戸から愛される寺が旅人と街をつなぐ

新たな拠点に

宿坊正伝寺

時代、周囲の環境の変化とともに、人の集まる場所としてのお寺の機能が薄れてきています」

そう語る田村完浩住職は、新しい寺のあり方を模索し、宿坊を開いてはどうかと考えた。ただ、自身は法事などで外出することも多いため運営は難しい。そこで「お寺ステイ」という新業態の宿坊を展開する株式会社シェアウイングに運営を委託。2019年7月に「Temple Hotel 正伝寺」をオープンさせた。東京23区初・日蓮宗では関東初となる宿坊は国内外から注目されていると同社代表の雲林院奈央子さんは言う。

「宿坊で心身を整えたいというニーズは世界的に高まっていますし、芝エリアは東京の新旧が堪能でき

今昔 田町・浜松町

過去が連綿と受け継がれる歴史に彩られた街



浜離宮恩賜庭園



増上寺大門



芝さつまの道



本芝公園



現在の地図

0 500m

- 1) 「浜離宮恩賜庭園」。江戸時代から残る潮入の池に現代のビルが映り込んでいる。2) ビジネス街に佇む「増上寺 大門」。奥には江戸初期から残る三解脱門が望める。かつての堀は、現在は埋め立てられている。3) 薩摩藩屋敷があった芝さつまの道。4) 雑魚場跡である「本芝公園」。モリなどの漁業道具が彫り込まれた舟の彫刻がある



江戸時代の古地図

『安政改正御江戸大絵図』国立国会図書館ウェブサイトより転載

- 1) 江戸時代の浜離宮恩賜庭園を描く土岐頼貞の作品。潮入の池を中心に、鷹の御茶屋などが描かれている。将軍が風情を楽しむほか、賓客をもてなす場でもあった。2) 正面から増上寺を眺めた錦絵。増上寺は徳川家の菩提寺で浄土宗の大本山。江戸期には3000人もの僧侶が修学に励む。当時は大門の前に堀が通っていた。3) 薩摩藩屋敷跡から出土した豚の骨。食肉が公に行われていない当時に薩摩藩では豚肉を食べていたことがわかる。4) 埋め立て前のこの地域は「芝浦」と呼ばれる海岸地帯だった。当時の漁業の様子が描かれる



「浜の御苑之記」

資料提供：国立国会図書館蔵



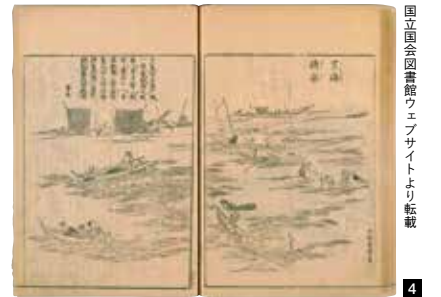
「東海道名所之内 芝増上寺」

国立国会図書館ウェブサイトより転載



「東海道名所之内 芝増上寺」

港区立郷土歴史館



「東海道名所図會」6巻

国立国会図書館ウェブサイトより転載

古地図が教えてくれる
江戸から令和への移り変わり

高層ビルが立ち並び、先進的な印象の田町・浜松町エリア。このエリアを古地図で見ると、増上寺を中心に神社や大名屋敷が立ち並び、その合間に町人地が点在する、さまざまな身分階級の人々が暮らす街だったことがわかる。

このエリアは約400年前、徳川家が江戸に入府した際に、江戸城周辺の城下町としてかたちづけられた。しかし、明暦の大火（1657年）により、江戸城周辺の大部分が焼失。浜松町・田町の郊外のエリアに都市は拡大され、大名屋敷が多く立ち並ぶようになる。さらに、町人が大名や家臣たちの生活を支える飲食店や服屋などを営み、都市機能は充実していった。古地図と現在の地図を見比べると、その違いがよくわかるのは海岸線。現在、山手線が走る東側は江戸時代には海が広がっていた。山手線の線路わきに佇む本芝公園を含む一帯もかつては海に面しており、雑魚場と呼ばれる魚市場があった。古典落語『芝浜』の舞台でもあり、漁師たちはここで漁業を行っていた。

しかし、1853年の黒船来航を契機に海岸線の防備が必要になり、台場をつくるなど整備がはじまる。明治時代に入ると堤防がつけられ、海の上を鉄道が走っていたという。大正時代以降、埋め立てが進み、戦後の高度経済成長期に更に拡大、現在の海岸線をかたちづかった。雑魚場は昭和45年に埋め立て工事が行われ、本芝公園に姿を変えた。公園としては珍しい細長いかたちは雑魚場であったことの名残だ。舟を模した石碑が残され、都会の一角の憩いの場として親しまれている。

当時、徳川家の菩提寺であった増上寺は江戸の入り口として、徳川家の権力を示すランドマークの役割を担っていた。現在、敷地面積は縮小されているが、現在の増上寺の入り口である三解脱門は当時の姿を残し、国内外から多くの人が訪れる観光地。また、現在「芝さつまの道」と名のつく通りは、当時の有力藩である薩摩藩藩主が住む「居屋敷」があった場所だ。高層ビルが立ち並ぶいまも、このエリアは時の重なりと歴史の息吹を感じられる地である。

お話をうかがったのは

港区立郷土歴史館
学芸員
石田七奈子さん



上) ロビー奥には、薩摩切子調のアートを設置。陶器の黒薩摩や蒲生和紙を組み合わせた意匠が特徴だ。左) 同じく薩摩切子が施された照明は、カフェ & パーラウンジ「セレクトロウ」のカウンターに。左下) 島津家の紋と江戸の桜を模した「KOMMON SCREEN」からは、土地の物語をつなぐドラマを感じることができる

港区芝3丁目。JR田町駅から徒歩圏内のこの地には、日本の近代化に結びつく物語がある。日比谷通りを芝公園に向かって歩くと現れる「ホテルザセレスティン東京芝」は、かつて薩摩藩の上屋敷があった場所。かの篤姫が將軍に輿入れする前に過ごした。この地に根ざして17年、「ホテルザセレスティン東京芝」は、2年前の大改装を経て、土地の物語を映した新たな安らぎの場所としてリオープンした。

「開業時から、薩摩に所縁があるお客さまが多く、改装時には土地のもつ記憶を感じられる工夫を施しました」と話すのは、宿泊支配人の池田さん。吹き抜けにある「KIRIKO WALL」は、薩摩切子をモチーフにした壁面アート。ロビーは、島津十字を亀甲つなぎに充てた「KOMMON SCREEN」が、空間を穏やかに隔てる。また、伝統工芸・大島紬で装飾した客室「つむぎ」も「ただ上質であるだけでなく、どこか懐かしさを感じられる空間で、寛ぎの時間をお約束します」。

街への敬意が継承する その土地の記憶 ホテルザセレスティン東京芝

DATA

ホテル ザ セレスティン
東京芝
住所：東京都港区芝3-23-1
Tel：03-5441-4111
チェックイン：15:00
チェックアウト：12:00
部屋数：243
料金：1万4530円～
(1部屋1泊)
www.celestinehotels.jp/
tokyo-shiba



DATA

東京感動線×TABICA



[https://tabica.jp/entry/
featuring/tokynomovingground](https://tabica.jp/entry/featuring/tokynomovingground)

森の案内人・三浦豊。1977年、京都市生まれ。日本大学芸術学部で建築を学び、造園会社勤務を経て、日本中の森をめぐるように歩いた森は3000カ所以上、日本に生えている木々の名前と特徴はほぼすべてわかる。ユーモアあふれる語り口も人気。著書に『木のみかた 街を歩こう、森へ行こう』（ミシマ社）がある

増上寺、芝東照宮、芝丸山古墳など数々の史跡を堪能できる港区立芝公園界隈。木々を観察しながら、森の案内人・三浦豊さんと歩く2時間半のツアーは、東京感動線と地域体験予約サイト「TABICA」が共催する企画のひとつ。秋冬に花を咲かせる桜、あえてまずい実をつける木。一本一本に秘められた物語に、参加者から大きな歓声が上がります。圧巻は、森の王様、榎。

「この木が育つ場所は土が肥沃なので、昔の人はこの木を伐採して村をつくっていました。だから、人が住むところに榎は残っていません。ここに残っているのは、近くに祠があったから。当時、人々は神聖な場所では草木すら抜かなかったのです。榎のある風景は、数百年前の東京の一部。この豊かさは、次世代に残したいですね」5世紀の古墳、16世紀の増上寺、20世紀の東京タワー。時を超えてすべてが共存するランドスケープの中で生き続ける木々の姿から東京の原風景が立ち上がり、進むべき未来を示してくれる。

東京感動線×TABICA

森の生命力が教えてくれる 街の過去と未来



写真提供：小笠原村観光局

浜松町

浜松町駅から徒歩圏内 島への入り口「竹芝客船ターミナル」

竹芝客船ターミナルを使えば、伊豆大島まで約2時間、父島も24時間で到着することができる。写真は父島の大神山展望台

JR浜松町駅から徒歩8分。伊豆や小笠原諸島への便を備える「竹芝客船ターミナル」は、90年代の再開発事業により誕生した。昭和9年に完成した竹芝埠頭から半世紀以上を経て、この地一帯が整備され、現在ではオフィスビルやシティホテルが並ぶ馴染みの光景が広がる。また、東京湾の眺めが楽しめるボードウォークも人気。開港以来、かたちを変えながら東京の海の玄関口として機能を果たし続けている。

DATA

竹芝客船ターミナル

住所：東京都港区海岸1-16-3

Tel：03-3432-8081

運行先：三宅島、伊豆諸島、小笠原諸島など
www.tptc.co.jp/terminal/guide/takeshiba



写真提供：川澄・小林研二写真事務所

田町

「みなとパーク芝浦」は、NTTファシリティーズが設計監理を実施。2017年には街区として、環境・設備デザイン賞最優秀賞に輝いた

近年、大規模マンションの建設が相次ぎ、人口が増加する田町駅東口エリア。大規模施設が立ち並ぶこのエリアの再開発は、山手線沿線の街づくりの目玉だ。中でも、東口北地区I街区における愛育病院やみなとパーク芝浦、第一スマートエネルギーセンターは、「低炭素で災害に強い街づくり」を実現。スマートエネルギーネットワークの構築からICTの活用まで、最先端技術を駆使した壮大な環境マネジメントは、東京の未来の一端を担っている。

新たな東京を創る 田町駅東口エリアの再開発



写真提供：すべて 渋谷スクランブルスクエア

右) 渋谷エリアで最も高い約230m、地上47階の「渋谷スクランブルスクエア」。左上) 「渋谷スカイ」の屋上展望空間「SKY EDGE」では、上空229mからスクランブル交差点を直下に見下ろすことができる。左下) 「渋谷キューズ」には、共創を促進するさまざまなコンセプトの空間が充実

2019年11月、渋谷駅直結の大規模複合施設が誕生した。商業施設、オフィスのほか、ふたつの個性的な施設が特徴だ。そのひとつが「渋谷キューズ」。年齢、専門領域を問わずアイデアをクロスさせ、新たな価値を共創する拠点となる会員制の産業交流施設だ。また、高さ229mの展望空間へと誘う「渋谷スカイ」での非日常体験もここならではの。多種多様な価値観が混じり合う街「渋谷」ゆえに生まれる、ここから発信される新たなムーブメントに期待が膨らむ。

DATA

渋谷スクランブルスクエア

住所：東京都渋谷区渋谷2-24-12

営業時間：ショップ 10:00～21:00

レストラン 12F 11:00～23:00、

13F 11:00～24:00 ※一部店舗により異なります。

渋谷スカイ 9:00～23:00 (最終入場22:00)

渋谷キューズ 平日 8:00～23:00、土・日曜、祝日 9:00～22:00

定休日：不定休 www.shibuya-scramble-square.com

山手線エリアの人・食・景色の魅力、発信中!

山手線各駅の周辺で「東京の、ちょっとだけ未来の景色」を感じさせるスポットや人を、新たな視点で紹介する本プロジェクト。今回フォーカスした、田町・浜松町それぞれの魅力は、小誌のほか、ウェブサイトでも動画や掲載しきれなかったスポット情報を加えて発信する予定だ。詳しくはQRコードから確認しよう。



QRコードから
ウェブサイトへアクセス

※QRコードは
デンソーウェーブの登録商標です

次はあなたの街を
ひも解きます!

Hamamatsucho
浜松町

Tamachi
田町

エキラボniri



「エキラボ niri」では、社交ダンス入門やハーモニカ教室など、街の個性を生かしたワークショップが随時開催されている

西日暮里スクランブル



西日暮里の顔となる場所に、2019年12月11日に誕生する「西日暮里スクランブル」。地域の逸品を描いた角打ちなどが出店している

TOKYO MOVING
ROUND



TOKYO MOVING
ROUND

東京感動線